

## 平成 30 年度第 3 回浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

### 第 2 回分科会（スポーツ） 議事要旨

日時：平成 30 年 10 月 9 日（火）

午前 10 時～12 時

会場：市役所 4 階 S 6 会議室

#### <出席委員>

野川 春夫 分科会長  
福元 明彦 委員  
長島 康晴 委員  
阿部 信之 委員

#### <欠席委員>

なし

#### <議 事>

1. 開会  
(1) 分科会長あいさつ
2. 議事  
(1) 課題・問題提起、方向性の確認  
(2) 具体的な取組案について
3. その他
4. 閉 会

#### <配布資料>

- 【資料 1】スポーツ分科会からの提言（案）
- 【資料 2】次期計画の課題と方向性に関する議論のまとめ
- 【資料 3】第 1 回分科会 議事要旨

## 1. 開会

野川分科会長よりあいさつが行われた。

## 2. 議事

### (1) 課題・問題提起、方向性の確認

### (2) 具体的な取組案について

事務局より議事(1)について、資料1を用いて説明が行われた。

(委員) スポーツに興味がない人をどのように引き込むかは重要だと思う。浦安スポーツフェアに参加してあらためて感じたが、まずは現場で体験してみることが重要ではないか。障がい者と健常者が一緒にスポーツに取り組むという考え方は今後重要になると思う。子どものスポーツ推進については、保護者の理解を促していくための取組も重要になると思う。

(委員) 浦安スポーツフェアは、おそらく日ごろあまりスポーツを行っていない市民も多く参加していた。学校を通じた情報提供等を行えたこともあると思うが、子どもと保護者が一緒に参加できたことが特によかったのではないか。こうしたきっかけづくりは重要だと思う。働き・子育て世代のスポーツ実施は全国的にも課題になっていると聞いた。浦安市でもどのように対応していくか、検討が必要ではないか。

(委員) スポーツを実施する市民を増やしていくには、以前に実施されていた「健幸ポイントプロジェクト実証事業」のようなインセンティブが得られる仕組みがあるとよいと思う。また、学校施設の開放について、メジャースポーツ以外の利用を促進していくことも重要だと考えている。高齢者のスポーツ推進については、高齢者を対象とした体力測定会を実施できると、やる気を喚起していけるのではないか。

(委員) 総合体育館や中央武道館は高齢者の利用も多い。

(委員) 子どもの体力低下も課題である。子どもが楽しみながらスポーツに取り組める工夫を考えていけるとよい。

(委員) 子どもや若者の体力低下は日本に限らず課題として提唱されている。

(委員) 若者でもスポーツをしている人は継続的にしていると感じる。二極化しているのかもしれない。

(委員) 最近はeスポーツも盛り上がりを見せている。

- (委員) ゲームが身体を動かすことにつながっていればよいが、実際はどうかかわからない。
- (委員) スポーツを行うという意識や行動を変容させることが重要だと考える。市民のニーズを受け入れる体制を整備するにあたり、市、スポーツ施設、スポーツ関係団体など、どこが体制を整備するか、具体的に考えられるとよい。学校施設の開放は、個人利用と団体利用をどのようにすみ分けを行っていくか検討できるとよい。浦安スポーツフェアのような取組は他自治体でも、20～30代の参加が少ないと聞く。また、子どもが多く参加する地域では、駐車場やイベント会場の動線など保護者への配慮を工夫しているという話も聞く。子どもにとって魅力的で、かつ、保護者もサポートとして参加できる工夫を考えていけるとよい。共生社会の実現にむけては施策の主な対象を考えていくことも重要である。
- (委員) 市民のニーズを受け入れる体制を誰が進めていくか、ライフステージごとにどのような課題があるかを整理していくことが重要だと考えている。
- (委員) 浦安では高齢者のスポーツ施設利用は多く、働き世代で少なくなっている。先日の市民ワークショップでも意見が出ていたがスポーツに馴染みのない層にどのように施設を利用してもらえるか考えられるとよい。
- (委員) 若い世代は民間施設を利用しているのであれば、それはそれでよいという考え方もある。「無関心」や「スポーツ嫌い」という層と「やりたくてもできない」層を分けて考えることが重要である。
- (委員) やりたくてもできないという働き世代の状況を考えると、施設の開館時間の延長は、試行してもよいかもしれない。部活動など、指導者の活動機会を増やしていくことも重要ではないか。
- (委員) 部活動では、学校長の考え次第で状況が異なる。
- (委員) 例えば市内の中学校で柔道部が少ないのは、指導者がいないということもあると考えられる。施設があるのだから活用できるとよい。
- (委員) 提言案について3点ある。1点目、総合型地域スポーツクラブについて記述がないが、あった方がよいのではないか。2点目、健康づくりとの関連性も示すことができるよい。

3点目、先ほど意見のあった「体制の整備」については、主体を具体的に示せるとよい。

- (委員) 総合型地域スポーツクラブの位置づけを明確にできるとよい。他自治体の計画では「行政が考え方を示し、体育協会・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ推進委員が実施し、市民がスポーツに取り組む」といった役割分担を明確にすることで、市民にわかりやすい計画をつくらうという議論があった。今アルゼンチンで開催されているが、オリンピックの意義を実感し、友情や相互の尊重を表現できるようにすることを目的としたユースオリンピック競技大会というものがある。浦安でも、世代や課題意識を明確にして、勝つことだけを目的としない、スポーツの取組を実施できるとよいかもしれない。
- (委員) スポーツの楽しさに勝ち負けもあると思う。バランスを取りながら進めていけるとよい。
- (委員) レクリエーションの考え方も重要だと思う。「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」も1988年から毎年開催されている。
- (委員) 様々な種目を楽しみながら、生涯スポーツにつながる機会を提供できるとよい。
- (委員) 少子化を背景に、子どもの取り合いになることもうまくケアしていけるとよい。スポーツを盛んにして、魅力あるまちづくりに取り組むという議論もできるとよい。高齢者だけでなく、子どもや保護者世代を巻き込んで、健康づくり、生涯スポーツを推進していけるとよい。
- (委員) 体育協会、軽スポーツ協会がどのような取組を行っているか、もっと市民に周知していけるとよい。また、イベントの実施方法も毎年大きな変更はないようだが、これまでと異なる視点で大きな方向転換やメニュー開発を検討してもよいかもしれない。
- (委員) スポーツイベントは、経験者が盛り上がると初めての人が参加しづらい雰囲気になることもある。企画や会場の動線など、工夫できるとよい。
- (委員) 馴染みのない種目にもふれる機会があれば、自身の好きな種目、生涯スポーツに出会うことができる。
- (委員) 浦安市の総合型地域スポーツクラブは、様々な種目に市民が気軽にふれる機会をつくるという主旨から、はずれてきているよ

うに感じる。クラブの運営は会費だけでまかなえているのか。

- (事務局) 市は備品にかかる経費を補助している。
- (委員) 自主運営だが、支援していくことを提言に盛り込めるとよい。
- (委員) 計画の中で、総合型地域スポーツクラブの役割が示されるとよい。
- (委員) スポーツ推進委員の関わり方が、いまいち把握できていない。
- (委員) 地域ごとにスポーツ推進委員も関わりを持てるとよいが、実際にはできていないように思う。役割分担やスポーツ推進における道筋を整理できるとよい。
- (委員) 体育協会もクラブの立ち上げに関与し、「地域のスポーツを推進する」ということで始まっており、市はそのサポートをしている。このように関係性を整理して示していけるとよい。
- (委員) その中で体育協会は、加盟団体の競技力向上が主な目的となっている。
- (委員) 健康づくり、楽しむことと、競技力向上など、目的に応じて役割を整理できるとよい。
- (委員) 健康づくりは主な目的ではなく、結果として、そうなればよいものだと認識している。競技を楽しむことがスポーツの主な目的ではないか。
- (委員) シニア競技もスポーツを楽しみ、人と交流することが主な目的であるとして、結果的に健康づくりにつながればよいと考えている。
- (委員) 様々な種目を楽しむことが記録され、蓄積されるポイント制度のような仕組みがあるとよい。ある種目を楽しんで、さらに別の視点でスポーツを楽しむということにつなげていけるとよい。
- (委員) ポイントなどのインセンティブは金銭面のメリットに限らず、広い目線で考えていけるとよい。特に若い世代にとってのインセンティブとはどういうものなのかは調べていく必要があると思う。総合体育館で新たなイベントを開催していくことは可能なのか。
- (委員) 総合体育館の利用は約1年前の使用団体による連絡調整会議で大方決定してしまう。
- (委員) 学校の体育施設の開放は、空きがあるのか。

- (事務局) 総合体育館と同様に学校もほとんど空きはない。
- (委員) スポーツクラブで積極的に活動をするほどではない子どもも一定数いると思う。放課後にそういった子ども達が参加できる場や機会があるとよい。
- (委員) 誰が責任を持って見守るかという問題もある。
- (委員) 浦安小学校では、月1回そのような場が設けられている。
- (委員) 学校の方針によるため、全ての小学校での実施は、すぐに実現することが難しいのではないか。公民館がそのような場になるという考え方もあるかもしれない。
- (委員) 大学がそういった市民の受け皿になってもよいのではないか。
- (委員) 大学との連携という視点は重要である。文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受け、地域に貢献する取組を行う大学もある。新しい試みを大学にも持ち掛けていけるとよい。
- (委員) 明海大学主催の大会も開催されたことがある。
- (委員) 無関心層の興味を喚起する工夫が重要である。きっかけづくりや嫌悪感を減らすアイデアを出し合う機会やスマートフォンのアプリ開発なども考えてもよいかもしれない。
- (委員) 広報うらやすは新聞の折り込み配布だが、若い世代で新聞を取らない家庭も増えている。スマートフォンの活用も視野にいれてもよいかもしれない。
- (委員) 様々な視点でスポーツのすそ野を広げていくことは重要である。
- (委員) アプリの開発が難しくても、ホームページの改良に着手できるとよい。
- (委員) まずはアイデアを出し合うことが大事である。
- (委員) eスポーツがオリンピック種目に採用される可能性がある。体育協会の加盟団体の理解を得ていくのは難しいかもしれないと感じている。
- (委員) オリンピック・パラリンピックも控えており、障がい者スポーツについても考えを整理していきたい。
- (委員) 車いすバスケットボールは事前キャンプが市内で実施される。この機会に交流する英国との関係はレガシーとして継承していけるとよい。

(事務局) アーチェリーオランダ男子代表のトレーニングキャンプも決定している。

(委員) オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承していくことは重要である。合わせて、障がい者スポーツの指導者を増やしていくことも重要である。適切な指導のもと、健常者も障がい者スポーツを体験することで、理解が深まっていく。

(委員) 指導者の質も重要な視点である。人材育成にも力を入れていけるとよい。

### 3. その他

提言の文案の作成は分科会長に一任されることとなった。

### 4. 閉 会

以上